

園の輪

そののわ No.180

学校法人 甲子園学院



生活発表会(甲子園学院幼稚園)

CONTENTS

〈校祖69回忌 追悼式〉…………… 2	〈学校園だより〉…………… 4~9
追悼の辞	幼稚園 小学校 中・高校 短大 大学
甲子園学院長 久米 知子	
記念講演 …………… 3	〈学院トピックス〉…………… 10
甲子園大学副学長 伏木 亨	板橋美波さん兵庫県スポーツ賞特別選手賞受賞
「日本料理の美味しさと持続可能性」	学院生の活躍

校祖六十九回忌 追悼式

令和四年三月三日、午前十時から中・高等学校体育館において、校祖第六十九回忌、前学院長八回忌が厳粛に挙行されました。祭壇には、校祖先生と久米利男前学院長のご霊位とご尊影の前に十六基の供花、お供えが捧げられ、学院長が追悼の辞を述べました。その後、教職員並びに各学校の学院生代表が献花しました。続いて追悼歌が流れ、次に吹奏楽部器楽アンサンブルが学院歌を演奏し、参列者は心の中で歌い追悼の意を表しました。



追悼の辞

桃の節句のきょう三月三日は、校祖先生ご逝去の年から数えて六十九回目の祥月ご命日に当たります。学院はこの日を、校祖先生並びに久米利男前学院長先生のご遺徳を偲び、併せて学院関係物故者の御霊を祀る「追悼の日」と定め、学院にとって最も意義深い行

事である追悼式を毎年厳粛に執り行っております。

今年度は、学院創立八十周年の記念すべき年であり、本来なら祝典や祝賀会を実施し共に祝いたく計画を進めておりました。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、入学式や卒業式をはじめ各種行事の実施もままならない状況の中、周年行事も見送らざるを得ないと判断し、記念史の発刊のみに留めることにいたしました。

さてコロナ禍が始まってもう二年になり、ワクチン接種や新薬の開発が進み、明るい光は見えて来ていますが、感染収束のメドはまだ立っておりません。

今後、私たちはゼロコロナではなく、ウィズコロナの生活を模索していくことになると思われます。さらに、少子化の進展など、私学を取り巻く環境の悪化は深刻で、学院もその煽りを受け、学生生徒数の減少になかなか歯止めが掛か

らない状況です。かつての最大在籍者数と比べる、今はその四分の一程度にまで減っております。

しかし徒に人数の減少を嘆くのではなく、人数が四分の一になったのならば、学院を選んで入学入園した一人ひとりに対して、以前の四倍、手厚く接することをすれば良いのです。一人ひとりを大切にしてきめ細かな指導を行い、親身になって面倒を見れば、その結果として保護者のもとより社会全体の信頼を得ることに繋がります。必ずやこの窮状を乗り越えることが出来ます。そのためにはこういう時こそ私たちは校祖先生のお教えを想起しなければなりません。校祖先生は「優れた教育を続けていけば、自ずとその評判が広がり生徒は集まって来る」と言われました。今は校祖先生の時代とは比較にならないほど、SNSなどの通信情報網が発達していますから、良い評判も悪い噂もあつという間に広がります。一般に悪い情報は良い情報の三倍の速度で広まると言われますが、それでも私たちが優れた教育を実践していれば、着実に志願者を増やすことが出来ます。しかし仮に逆のことをすれば彼らはあつという間に消えてしまします。

そう考えれば校祖先生のお言葉は時空を超え、一層の重みを増してきます。しかし学生生徒が思う



ように集まらないと私たちは宣伝広告など何かしらの妙薬を求めがちですが、もし教育内容に見るべきものがなければ、逆効果にしかなりません。またどんなに立派に外見を作っても、その中身が人々に訴えかけるものでなければ、当面は凌ぐことができたとしても、結局は続かずに消えていく運命を辿ります。

それだけに今だからこそ私たちは校祖先生の精神に立ち返らねばなりません。そしてその精神を最も強く受け継いでおられたのが前学院長先生でした。

ご逝去から七年余が過ぎ前学院長先生を知らない教職員も増えてきましたが、校祖先生同様前学院長先生から学ぶべきところは多くありました。

例えば先生が中高の校長を兼務されていた頃は雨の日も風の日も毎朝、教員と共に校門に立ち、登校する生徒一人ひとりと挨拶を交わし、清掃や戸外の作業なども厭わず進んでなされておられました。雪の降りしきる中、当時の事務局長 久米多香子特別顧問と一緒に雪かきをされていたお姿が目には浮かびます。この率先垂範の精神は今も私たちのお手本であると同時に、こうした先人の地道なご

努力の積み重ねがあつてこそ、学院は大を為し、私たちがここに集えるのです。その有難さを決して忘れてはなりません。

今年度は学院創立八十周年の節目の年ということで、今一度、建学の精神に立ち還るべく校祖先生と前学院長先生のお教えを披露いたしました。両先生の共通点は突き詰めればただ一つ。それは「学院への限らない愛情」です。

私は年度初めの辞令交付式のあいさつで、新採用の教職員に必ず「日本一愛校値の高い学院を目標に」と申します。

教職員の愛校値の高さは、学生生徒児童園児に対する深い愛情へと昇華し、それはそのまま彼らの心を育てる原動力となります。

学院に学ぶ者は皆、真面目で素直ですから愛情を持って接すれば必ず強い愛校心を持つようになり、そうして巣立っていった卒業生がやがて、自分の子供を学院に入學入園させて、保護者として再び学院に帰って来る姿を見ることが私たちの大きな喜びであり教育の醍醐味だと思います。

そのためには毎日の地道できめ細やかな教育が肝要です。それが出来れば懸案である人数の回復も可能になります。

また一方では、学院も時代に対応した変化を遂げなければなりません。

コロナウイルスでさえ、生き残

日本料理の美味しさと持続可能性

甲子園大学副学長 伏木 亨

○食の欧米化が進んできた

日本人の食の欧米化が進んでおり、肥満や生活習慣病の増加が問題になっている。1970年以前と比較すると、一日に摂取するカロリーの内容が糖質から油脂に大きくスライドしている。

油脂を反復して動物に摂取させると、動物がやみつきになることを我々は明らかにした。食べ続けたいという欲望を生じさせる神経が刺激されており大脳辺縁系の神経末端からドーパミンが放出されることも明らかになった。

欲求の強さを表す方法として、オペラント条件付けレバー押し実験がある。実験動物が一定回数レバーを押せば窓のシャッターが開いて実験動物は少量の油脂を舐めることができる。一度目は数回のレバー押しで窓が開くが、二度目以降は必要なレバー押し回数が漸増するように設定してある。実験動物がいきりめるまでのレバー押しの総数はマウスの執着の強さを表す。この方法で、油脂と砂糖水とダシの三つの溶液に対する強い執着が確認された。

○和食は美味しさと健康の二律背反を回避できる

一般に、国の経済が豊かになる

と嗜好性の高い料理を食べる頻度が増す。生活習慣病が増加するが、節制は容易ではない。多くの人が食の満足感と健康の二律背反に遭遇する。

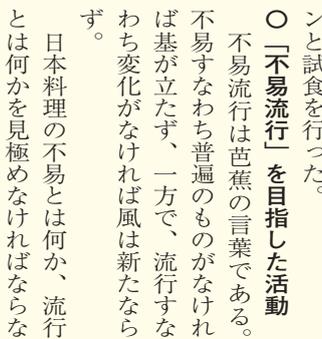
美味しさと健康を無理なく両立させる方法として、伝統的な和食の美味しさのメカニズムが応用できると考えた。和食の起源は古く日本が仏教の教えに従って家畜の肉を食べなかった時代を経てきた。砂糖は高級品で庶民には手が届かない。植物油は主に灯明などに使われており、食材としての摂取はほとんどなかった。おいしい食材がほとんどない時代に発展した和食は、油脂や砂糖を使わずにダシのうま味で満足感を高める道を見出した。

生後二十四時間以内の新生児の舌の上に特に特徴のないスープに〇・五%のグルタミン酸ナトリウムを添加すると明らかに好ましい表情を示し、人間は先天的にうま味を好ましく感じる事が示唆されている。先の動物実験でも明らかのように、油脂と砂糖とダシのうま味の三者は、同じメカニズムでやみつき感をもたらす。すなわち、和食はダシのうま味によって低脂肪・低カロリーながら高い満

足感を可能にできるのである。
○日本食と塩分、料亭の料理にみるおいしいダシと塩分との関係
健康的な和食も、塩分のとりすぎになりやすいといわれる。欧米の食の美味しさには油脂と糖の寄与が大きいのに比べ、日本の料理の美味しさはだしのうま味と塩味が前面に出る。和食の塩分濃度を欧米並みに下げる必要はないが、改善するに越したことはない。京都の有力料亭の方々と活動した頃、三軒の有力料亭の一番だしをいただいて成分を分析したことがある。驚いたことに三軒のだしの塩化ナトリウム濃度はいずれも〇・六三〜〇・六五という狭い範囲に収束していた。一般的な家庭の吸い物の塩分濃度は〇・八〜〇・九%程度であることを考えると、非常に低い。しかし、三軒のだしでも、決して塩分が足りないと感じさせるものではなかった。昆布とカツオを十分に使って引いただしには、塩は重要ではない。塩を足してゆくと、ダシや食材の味わいの輪郭がくつきりと固まりはじめる。このあたりで塩を止めるのが料亭の塩加減であり、数値的には塩分濃度〇・六四前後である。良質の昆布

やカツオ節の風味があれば塩に頼らずとも満足感のある調理が可能になる。
○持続可能性への京料理の試練
しかし、今から二十年ほど前、日本料理の料亭は深刻な不況の中にあつた。フレンチやイタリアンの店舗が増加し、日本料理は値段が高く、地味で退屈な料理として評価を落としていった。京都の有力料理人に大学の研究者が加わって組織されたNPO法人日本料理アカデミーは、日本料理が再びかつての勢いを取り戻すために大きな方向転換を計った。それは、料理と科学の共同による、伝統の衣を着ながらも最も先端の料理を目指すことであつた。研究者とのコラボレーションは、京料理に科学的な論理を取り入れ持続可能性を開拓した。毎年一〜二題の共通のテーマを設定し、その意味を徹底的に議論し、料理として表現した。各自の料理を皆で批評しあい、意識の統一がなされていった。年に一度公開のシンポジウムを行い、試作した料理のプレゼンテーションと試食を行った。

○「不易流行」を目指した活動
不易流行は芭蕉の言葉である。不易すなわち普遍のものがなければ基が立たず、一方で、流行すなわち変化がなければ風は新たならず。
日本料理の不易とは何か、流行とは何かを見極めなければならな



るために必死に変異を続けていますが、企業や学校も、変化しなければ生き残ることは出来ないというのはいわば自然の摂理であるとも言えましょう。
これからの甲子園学院も建学の精神は堅持しつつ、時代の移り変わりにどのように適合していくのか、私たちに課せられた大きな課題であります。
難しい時代ではありますが、私たちは学院の歴史と伝統を守りながら、更なる進化を遂げながら、より良い学院を作り上げていくことをここにお願いいたしますと共に、校祖先生並びに前学院院长先生、そして先に物故されし幾多の御霊の一層のご加護をお願いし、追悼の辞といたします。
令和四年三月三日
甲子園学院院长
久米 知子

学習発表会 I

十一月七日

今年度の学習発表会 I は会場での鑑賞に加え、オンライン（YouTube）でも同時配信をしました。一年生は、各自がアイテムを持ち、潜水士として海底の謎に立ち向かいました。元気いっぱいな音読劇になりました。二年生は、幻の花を見つげ出すために勇者たちが力を合わせて困難に立ち向かうという音楽劇。三年生の国語劇は、宇宙の小学校を舞台に、友達同士の人間関係が描かれたお話でした。四年生は、英語劇で「桃太郎」を演じました。



原作から少し内容を変えたことで面白さも加わり、英語学習の成果を発揮しました。

五、六年生の音楽は、合奏、リコーダー奏に加え、ボディパーカッションを行い、全体で音楽表現をしました。国語劇では、博士が自分の夢のために、錬金術で精霊を呼び出すという「信頼」をテーマにした劇を演じました。



最後は特別出演として、甲子園学院中学校高等学校吹奏楽部の皆さんに演奏をしていただきました。熱のこもったパワフルなステージで会場は大いに盛り上がりました。

秋の遠足

十一月二十二日

遠足は、全校生で姫路セントラルパークへ行きました。

午前中は、アミューズメントパークで活動しました。事前に班ごとで話し合い、乗りたいアトラクションを決めました。あいにくの天気でしたが、レインコートを着て乗り物に乗ったり、室内のアトラクションを楽しんだりしました。



バスの中でお弁当やおやつを食べた後、ドライブスルーサファリを巡りました。間近でライオンやキリンなどの様々な動物を見ることができました。初めて見る動物もいたようで、子どもたちはとても喜んでいました。

iPad・プロジェクター

導入

今年度、新たにiPadと各教室にプロジェクターを導入しました。

iPadは、インターネットを活用した調べ学習のほかに、アプリを用いた「速読」やプログラミング学習にも活用しています。多様な大量の情報を収集、整理・分析、まとめ表現することができ、例えば、授業支援ソフトを利用することにより、グループ学習で互いの意見を共有することも容易になりました。三年理科の授業では、身近な昆虫や、珍しい昆虫、変わった特徴をもった昆虫などを調べ、知識の幅を広げました。また、国語科の授業では、物語の文中に出てくる単語や草花について意味とその様子について調べました。今までは辞書をひいて単語を調べていましたが、iPadを使い、キーボード入力に挑戦しました。データや資料を提示するためのプロジェクトも各教室に整備されました。書画カメラやiPadと併用して、より児童の関心・意欲・態度を高める効果が期待できます。



すばらしい先輩たち

前田 琴和



六二期生
甲子園学院中学校三年生
吹奏楽部所属

甲子園学院小学校では、林間学校や沖繩への修学旅行など、みんなと関わる行事が多くありました。また、毎日の学校生活でもクラスの友だち以外にも一緒に遊べる人がいて充実した毎日をお過ごし中で和衷協同の大切さを学びました。勉強は大変だったけれど、みんなと過ごした日々は私の宝物です。小学生のときはピアノを習っていましたが、他の楽器は経験がなく、甲子園学院中学校高等学校の吹奏楽部に入ることなど想像もしていませんでした。現在パーカッションを担当し、

1・2成人式 二月二十四日

四年生が、自分の将来についての決意を発表し、今後のことについてや得意技なども披露しました。将来について真剣に考える機会となり、これらから自分の目標に向かって頑張ろうという気持ちを持つことができました。



令和3年度中学入試 合格・進学者数一覧(男子14名、女子6名)

合格者数	進学者数	合格者数	進学者数
愛光	3	0	0
桜蔭	1	0	0
追手門学院	1	1	2
大阪星光学院	1	1	0
大阪桐蔭	1	3	1
岡山	3	4	1
岡山白陵	1	1	0
開明	1	1	1
海陽学園	1	1	1
関西大倉	1	1	3
関西大中等	1	1	2
甲子園学院	1	1	1
甲南	4	2	0
甲南女子	1	1	0
神戸海星女子学院	2	1	1
神戸大学附属	1	0	3
神戸龍谷	2	0	2
甲陽学院	1	1	2

私立中学入試報告

忙しいながらも充実した生活を送っています。先輩のみなさんが優しく教えてくださり、練習に励み、たくさんの人に支えられてコンクールメンバーにも選ばれて、本当によかったと思っています。高校生になれば、パーカッションを操る技術をもっと磨き、メンバー全員から信頼してもらえるようになりたいです。一番の願いは吹奏楽コンクールで勝ちぬぎ、全国の舞台に立つことです。多くの人に音楽の素晴らしさを届けられるよう、自分たちの音楽をもっと深められるようになりたいです。



校外学習

中学、高校一・二年

十一月二日に校外学習を実施しました。

中学生は丹波篠山方面に向かい、午前中は丹波焼「窯元やまの」で陶芸体験を行いました。手びねりでの成形に苦戦していましたが、後日学校に届いた作品をみた時には満面の笑みを見せていました。午後からは「しい茸ランドかさや」で大自然の中、昼食のB.B.Qに舌鼓をうち、満足した様子でした。



高校一年生は姫路城と太陽公園に出かけ、城の散策や公園のアトラクションを楽しみました。決められた時間の中で予定をしっかりと立てて行動できた班が多く、成長を感じられました。

高校二年生はネスタリゾート神戸に向かいました。オリエンテーション、クラス写真撮影の後、特別で計画して決めたアクティブイベント



験しました。スカイイーグルやキヤニオンドロップ等自然を利用したアクティビティが人気でしたが、ワイルドカヌーで談笑しながらゆったりとした時間を過ごす班もいました。天候に恵まれ、帰校時にバスから降りてきた生徒たちの明るい表情が印象的でした。クラスメートとの親睦も深まり、充実した一日となったようです。

吹奏楽部 定期演奏会

十二月十四日、あましんアルカイックホールにおいて、吹奏楽部の第十一回定期演奏会が行われました。新型コロナウイルスの感染拡大の対策には万全を期し、完全予約制の入場システムを採用しました。当日は平日にもかかわらず、千人を超える多くのお客様にご来場いただきました。

今回のオープニング曲は「レイズ・オブ・ザ・サン」。これは、記念すべき第一回定期演奏会でオープニングを飾った思い出の曲です。定期演奏会は今年で五年目となり、アルカイックホールには第四回からお世話になっております。この定期演奏会で引退となる三年生を中心に気迫のこもった演奏からスタートしました。そして、この日一番の注目曲は『ブリュッセル・レクイエム』です。これは二〇一六年三月に起き

わくわくステージ オークストラ 中学生

九月三十日、県立芸術文化センターで行われた「わくわくオーケストラ」と、十二月三日、ピッコロシアターで行われた「わくわくステージ」に参加しました。わくわくオーケストラでは結婚行進曲や、モルダウの演奏のほか、楽器の紹介などが行われました。わくわくステージの「グリム兄弟！〜みんなのメルヘンきかせてダンケ〜」は、様々なキャラクター

た「ブリュッセル連続テロ事件」の犠牲者に捧げるレクイエム、すなわち鎮魂曲です。けれどそこにはテロに対する激しい憤りと怒りが綴られています。約七分にも及ぶ演奏時間の中に人の心の波が描かれます。このような大曲を披露できるまで成長してこられたことはとても喜ばしいことです。第二部は生徒たちが中心となって企画する人気の「KGB劇場」で、楽しいひとときを過ごすことができました。今回はさまざまなまな映



いが歌い踊り、笑いもある劇で、生徒たちは楽しく鑑賞しました。

高等学校 入学試験説明会

十二月四日・十一日・十八日に令和四年度高等学校入学試験説明会を実施しました。

今年度も新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、吹奏楽部による歓迎演奏で全体説明会がスタートし、本校の特色、令和四年度からの新コースについての説明

画の舞台に時空間旅行をするという設定で、有名なテーマソングを演奏しました。



しめくりは、引退セレモニーです。一年生からの思い出の写真がたくさん入った動画が流れた後、三年生全員で合唱しました。最後に部長が時々声をつまらせながらも、支えてくれた人たちに對してお礼の言葉を述べ、ひとりひとり仲間の名前を呼び、送り出し、後輩にバトンを渡しました。二年生以下の部員たちは、しっかりとバトンを受け取り、新しい歴史を刻んでいくことを約束して、演奏会の幕を閉じました。

吹奏楽部の活動

吹奏楽部では、コンクール以外にも多方面にわたって活動しています。今年度はオリンピック・パラリンピックにちなんだ活動として「チーム コカ・コーラ」の「Colorful Relay」に参加しました。また、JR甲子園口駅の「みどりの窓口」のBGMとして「銀河鉄道999」西宮市出身のシンガーソングライターあいみよんの曲「マリーゴールド」の演奏が流れています。そして、学院小学校の学習発表会にお招きいただき「ディズニードレ」や「アニメソングメドレー」を演奏し盛り上がりしました。これからも、甲子園サウンドを追求していきます。さらに四月からYouTube配信の予定です。登録をお待ちしています。



おたのしみ会

十二月二十一日(高校一・二年)、二十二日(高校三年・中学)にお楽しみ会を学年ごとに分かれて実施しました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、昨年度に引き続き今年度も文化祭を開催することができず、その代替行事として行いました。

「例年通りができないからこそ新しいものを創る」というコンセプトのもと、『ダンスON Eプロジェクト』と題し、学校全体でのダンス動画を作成し、お楽しみ会で視聴しました。



踊る曲は生徒会が中心となって選曲し、K-POPグループBTSの『Permission to Dance』に決められました。この曲には他者への感謝、人の多様性を理解して自分自身を愛すること、国際平和やパンデミックを全員が協力して乗り越えることなど、様々な思いが込められています。

学校全体で一つのダンスを完成させるということで、クラスごとに服装、撮影場所を分け、踊るパートを割り振りました。それぞれ

のクラスが「共通の振付で踊るサビの部分」と「自由な振付で踊るクラス別の部分」の二種類を担当し、中学校、高等学校合わせて二十四種類の映像を作りました。また、同時に練習風景も撮影し、メイキング映像も作成しました。これらすべての動画をつなぎ合わせて編集し、一つの作品が完成しました。当日、動画を視聴した生徒たちからは「ダンスは難しくて覚えるのが大変だったけれど綺麗に揃ってよかった」とや「バク転に挑戦しているクラスがあつて凄かった。」「編集が上手でかつこい動画になっていた」との声がありました。創作過程では摩擦やも

りがありましたが、最終的には全校生徒が一つの目標に向かって取り組む雰囲気となり、一体感が芽生えました。

ダンス動画視聴のあとは〇×クイズ大会を行いました。雑学や先生たちに関するクイズが出題され、頭をフル回転させて答え、大いに盛り上がりました。決勝戦では皆が固唾をのんで見守るなかでの戦いとなり、勝者には大きな拍手が送られました。その他、学年ごとに企画・進行し



短大連携成果発表会

5年一貫幼児教育コースの生徒たちは、二学期に様々な「学びの成果発表」を行いました。九月には「手づくり絵本の制作発表」

に全学年が取り組みました。その後、一年生は「ポスターセッション」保育園での季節の行事、二年生は「エプロンシアター制作発表」、三年生は「大型ペーパーアート制作発表」と「ピアノの成果発表会」を実施しました。



どの発表会でも完成披露にとどまらず、そこに至るまでのプロセスや込められた思いがしっかりと伝えられ、将来の目標に向けての着実な歩みを感じられました。

たジェスチャーゲームやビンゴ大会もあり、生徒・教員ともに楽しいひと時を過ごすことができました。次々と行事の中止を余儀なくされている中、規模を縮小しながらでも今できることに一生懸命、笑顔いっぱいに取り組んでいました。

総合演習成果発表会

数学探究

一月二十日、数学探究の成果発表会を行いました。三年選択生徒が二人組になり、①「宝くじの確率」②「コロナの怖さ評価」③「12」の不思議」について発表しました。

宝くじの期待値計算からその「購入価値」を問いかけました。次にコロナの致死率計算から他の病気や事故との「怖さ比較」について考察しました。最後に「お菓子は12個入りが多い」の仮説から12という数の持つ不思議に迫りました。自ら主題を



SDGs演習

SDGsをテーマに一年間、プレゼンテーション資料の作成や発表に取り組みました。「SDGsってなんだろう」という疑問から授業をスタートし、貧困やまちづくりなどのテーマでグループワークを行いました。

三学期には集大成として、一般社団法人 未来教育推進機構が主催する「SDGs探究アワード」に応募しました。一年間の授業を通して生徒たちからは「SDGsのニュースや話題に興味を持つようになった」「グループで目標に向かうことの楽しさと難しさの両方を知った」など、様々な声聞かれました。

第74期生 大学入試合格状況

(3月8日現在)

甲子園大学	2名		
甲子園短期大学	15名		
甲南大学	1名	龍谷大学	2名
京都産業大学	1名	甲南女子大学	2名
神戸学院大学	3名	神戸松蔭女子	
佛教大学	1名	学院大学	6名

私学総連合美術展

一年ぶりの開催

昨年度はコロナ禍により中止となったため、私学総連合会では今年度はなんとか開催しようとするべく、議論を重ねました。その結果、搬入搬出作業等を教職員の手に、鑑賞はオンラインでの配信を利用するなど最大限の感染対策を導入し、開催できました。

県民会館HP上の「県民アートギャラリーWalk360」で展示風景を楽しむこともできます。

土井善晴先生講演会 I・II回生 合同特別演習

十一月二十六日、土井善晴本学客員教授により「料理学の領域と意味」をテーマにしたI・II回生合同特別演習のための講演会がオンラインで開催されました。

土井先生は、「日本は豊かな自然と水に恵まれ、古くから手洗いの習慣と清潔感を持っており、日本の食文化である和食は清潔を基本とする」との概念が、海外でも理解されている」と述べられていました。また計量と調理については土井先生が講師を務めるNHK「きょうの料理」を例に挙げ、魚や肉は一切れという表現では種類によって重さも異なる。一般化するうえでレシピは計量化され、大さじ二杯(30cc)などと分量表示した調理になったとの説明がありました。

しかし、レシピ頼りでは五感が

生活環境学科 介護実習

介護福祉フィールドのI回生はコロナ禍の中、高齢者施設での実習に向けて準備を行ってきました。これまでの実習は無事に実施できましたが、新型コロナウイルスの新たな変異株・オミクロン株の出現により、二月十四日から一部の学生が学内での実習を余儀なくさ

働かず、自分の目で火加減を確かめ、経験値を積み重ねていくことが大切で、作る人と食べる人のやり取りには重要な情報があると教えていただきました。

特に旬の食材を使い、相手の体調に配慮して料理する家庭料理には、作り手の愛情が感じられ、食べる側の五感も発達していくこと、食べたものを言語化することは科学的でないが、皆で食べておもしろかったという経験は共有した者同士にしかわからないこと、料理はあらゆる学問とつながっており、これから「料理学」が学問として広がってほしい、と料理の大切さについて語られ、学生は熱心に耳を傾けていました。



「お味増知る。」
土井善晴 光共著
土井善晴 光共著
世界文化社発行

学内での実習は、DVD教材を参考にしながら、施設利用者の生活支援技術や介護過程についての学びを深めました。

高齢者施設での実習は、入所されている方の生活を支援するために生活背景などを伺い、情報収集につとめるなど、介護福祉士に必要な技術を学びました。このような中で実習をさせていただいた関係機関の方々へ御礼申し上げます。

幼児教育保育学科 フィールドワーク

十二月二日、幼児教育保育学科II回全員で神戸市立王子動物園へ行きました。

保育現場に就職したときのことを想定し、園外保育に必要な準備、行程、保育内容を学ぶためのフィールドワークです。学生たちは、事前に計画を立てた行程に無理はないかを確認しながら、公共の場に適した行動をとっていました。

また、園内では、子どもの目線から動物を観察し、子どもたちはどのようなことに心を動かすのかを考えながら見て回りました。さらに、園内のいろいろな生き物の

新しく取得可能になる資格

ライフキャリアフィールドでは、令和四年度から現代社会を支える人材として期待される医療関連の資格が加わります。

患者や家族の支援にあたる保健医療ソーシャルワーカーをはじめ、保険薬局での事務をする調剤秘書士、医療費請求のレセプト点検実務士です。その他にITパスポート(国家資格)を目指すことができます。また、インターンシップの体験で実践力を磨き、進路の選択肢を広げる取り組みにつながります。(※下表の赤字の資格が新しく取得可能になります。)

両学科共通	初級園芸福祉士 社会福祉主事任用資格	
生活環境 学科	両フィールド共通	医療管理秘書士 診療実務士(1~3級) アロマコーディネーター
	ライフキャリア フィールド	保健医療ソーシャルワーカー 調剤秘書士 レセプト点検実務士
	介護福祉 フィールド	介護福祉士 (国家試験受験資格)
幼児教育 保育学科	幼稚園教諭二種免許状/保育士/認定絵本士 幼稚園・保育園のためのリトミック指導資格(1・2級)	

動きに興味をもち、楽しみなからそれぞれの特徴を観察していただきました。



学生にとっては、新型コロナウイルス感染症拡大等の影響で、入学後初めてのフィールドワークとなりましたが、短期大学生活でのよい思い出となりました。今回のこの経験は今後の進路で活かしていきましょう。

エッセイコンクール 絵本コンクール

結果報告

今年度で七回目を迎えた高校生エッセイコンクールは「SDGsと私を取り組めること」をテーマに四百を超える応募がありました。また、昨年度よりスタートした絵本コンクールには、折紙を貼ったり、仕掛け絵本にしたり、フェルトで布絵本を作ったりするなど、個性豊かな力作が集まりました。ご応募いただきました生徒・学生の皆さん並びにご指導の先生の皆様に厚くお礼を申し上げます。

なお、絵本コンクール受賞作品は読み聞かせ動画にして、短大インスタグラムなどで公開中です。ぜひご覧ください。

絵本のPOP展示

認定絵本士を目指している幼児教育保育学科I回生が、児童書を担当している書店員の方から絵本POPの作り方を学びました。制作したPOPは、ジュンク堂書店西宮店の
ご厚意で
一月二十九日から
一か月間、
実際に紹介POPとして展示され、売りに
上げにも貢献できました。



宝塚市立看護専門学校と
合同授業実施

甲子園大学では、令和四年度から「多職種連携教育(IPE)」を実施します。そのため、今年度は試験的に複数回実施し、十二月十五日、IPEの連携先である宝塚市立看護専門学校と、合同授業を実施しました。

栄養学科二年生と心理学部三、四年生が看護専門学校と合同でグループに分かれ、自分の目指す職種(管理栄養士、公認心理師・臨床心理士、看護師)についてプレゼンテーションと質疑応答を行いました。今年度三回目の合同授業ということもあり、オンライン上の議論のやりとりもスムーズに行われました。

特別講義実施

心理学部

十二月七日、岡本株式会社取締役・マーケティング本部長の白井光比呂先生を講師にお招きし、ヒット商品「脱げないコピタ(カバソックス)」のマーケティング戦略について、具体的なアプローチを様々な角度からわかりやすく講義していただきました。白井先生は、コンセプト設定、ターゲットの絞り方、価格設定の方法、商品のネーミング、プロモーション

職種を説明することで、改めて自分の目指す職種について知ることができ、他の職種についても詳しく聞くことができたと思う」

「栄養学科の職種紹介に対して、看護目線、心理目線からの気になることや、看護ならではの質問があり、質疑応答で多職種連携をしている気分になり、学びが実践的に活かされるいい機会だと感じた」などの感想があり、他学科の学生との関わりから多くを学ぶ姿が見られました。IPEが、幅広い専門分野について学生が学ぶきっかけになることを期待しています。



ンに至るまで、消費者の購買意欲を高める具体的な戦略について、企業活動の実際をご紹介くださいました。

今回の講義を通して、学生は心理学という学問がどのようにマーケティングに関係しているのか実感できたことでしょう。



宝塚カレーグランプリ
2021に出店!

宝塚カレーグランプリ2021が八月二十九・三十日に開催されました。阪神地区の五大学が、この日に向けて開発したオリジナルカレーを宝塚阪急百貨店において販売しました。園田学園女子大学、武庫川女子大学、梅花女子大学、羽衣国際大学と共に甲子園大学が出店しました。この日のために選ばれた栄養学部栄養学科のメンバーが早朝から集まり、調理しました。一日目は、「夏野菜のキーマカレー」を販売しました。



かぼちゃやオクラ、なす、トマトと、色とりどりの野菜をトッピングした栄養満点のカレーです。二日目は、「純和風日本のキーマカレー」を販売しました。ひき肉をたっぷり使用したカレーに、和風のカギとなるレモンコンを添えました。両日とも販売開始から一時間以内に販売目標の五十食が完売となりました。



地域連携共同イベント開催
十月三十日、三十一日

宝塚西谷地区の魅力を広めるため、西谷地区で採れた野菜や加工品の直売所を大学キャンパス内で開きました。今回のイベントは大学と地域連携している西谷地区の活性化を進める宝塚商工会議所とも共同し、学生が企画・開催したものです。会場では、野菜・加工品販売のほか、フードデザイン学科の学生が考案したレシピの配布を行いました。また、ダリアを使用した花絨毯、炭酸煎餅を使ったチョコアート、食事バランスガイド折紙など、学生考案企画のブースを設け、地元宝塚市を中心に多くの来場者にお越しいただきました。



学生選書ツアー

学生選書ツアーは、図書館に所蔵してほしい本を学生が書店で選ぶイベントです。図書館の選書に学生のニーズを反映し、読書推進や図書館利用促進を図ることを目的としています。

今年度、初の試みとして十月二十六・二十八日にジュンク堂書店西宮店で開催しました。参加した学生は、心理学部の六名です。それぞれが熱心に本を選び、学生の視点から幅広い分野の本を選んでいました。十二月二日には、選書した本を囲んで選書報告会を開催しました。「久しぶりに書店で本をじっくりと選んで楽しかった」「話し合いながら選ぶのは一人で選ぶのとはまた違った楽しさがあった」などの感想がありました。



甲子園大学×劇団からっぽ大作戦

食育動画制作

食育実践演習Iを受講する学生が宝塚市の劇団からっぽ大作戦と共同で食育動画を制作しました。劇団からっぽ大作戦は、宝塚市学校給食の調理員が「好き嫌いをなくし、何でも食べられる子どもた

ちになってほしい」との願いから設立された劇団で、台本、衣装、小道具など、すべて手作りしています。今回共同制作した動画は、「給食クイズ大作戦」です。学生はクイズの解答者として登場し、給食室に関する知識をわかりやすく伝える役割を果たしました。

板橋美波さん (甲子園大学心理学部四年)

兵庫県スポーツ賞特別選手賞受賞

十一月九日、板橋美波(甲子園大学四年)さんが、兵庫県スポーツ賞特別選手賞を受賞しました。この賞は、東京五輪のメダリストと五輪二大会連続入賞者、東京パラリンピックのメダル獲得者が対象です。贈呈式後、甲子園学院本部で「受賞をお祝いする会」を開催しました。



関係者を代表して、佐久間春夫甲子園大学長から「板橋さんの活

学院生の活躍

吹奏楽部

- 全国ポピュラーステージ吹奏楽コンクール(西日本大会)(十月) **金賞**
- 日本管楽合奏コンテストB部門予選大会(十月) **最優秀賞**
- 日本管楽合奏コンテストB部門全国大会(十一月) **最優秀賞**
- 全国ポピュラーステージ吹奏楽コンクール全国大会(十一月) **準優勝**

高等学校ソフトテニスボール

○令和三年度西宮市高等学校体育大会ソフトテニス大会(十月) 女子個人戦ダブルス

矢部彩華(高二)・有川小夏(高二)組 **3位**

高等学校バレーボール部

○令和三年度阪神高等学校1部リーグ(十月) **優勝**

○令和三年度兵庫県高等学校新人大会阪神地区予選大会(十二月) **3位**

フィギュアスケート

○2021近畿フィギュアスケート選手権大会(十月) **総合7位** 緒方美遥(高二)



「青森インターハイ」に出場しました

中学校バレーボール部

○令和三年度西宮市中学校新人大会(十月) **優勝**

○令和三年度阪神中学校バレーボール新人大会(十月) **優勝**

○令和三年度兵庫県中学校新人バレーボール大会(十一月) **優勝**

中学校剣道部

○令和三年度西宮市中学校新人大会(十月) **団体戦準優勝**

私学総連合美術展

一月二十八日から三十日まで、兵庫県民会館アートギャラリーで第六十回私学総連合美術展が開催され、本院の各学校園から作品を出展しました。

幼稚園年少組	江間 寛香
年中組	柳瀬 えみ
年長組	森田 能弘
小学校 一年	神澤 美桜
二年	直島 早春
三年	上小鶴 倅明
四年	垣田 奎人
五年	柳野 蒼空
六年	中橋 紗奈
中学校 三年	植野 紅亜
三年	福井 希佳
三年	福家 千紘
三年	三葉 類
高等学校 一年	高嶋 彩乃
一年	小川 真魚
二年	勝又 風香
三年	飯田 彩花

兵庫県私学の書展 特選受賞

十一月十八日から二十三日まで、神戸三宮地下街さんちかホールで、第五十四回兵庫県私学総連合「私学の書展」が開催され、三名が特選を受賞しました。

特選(呉竹賞)	高等学校三年	磐隈 心
特選(みなせ筆本舗賞)	中学校三年	西馬 帆乃香
特選(一休園賞)	小学校二年	妹尾 貴美
入選	小学校二年	直島 早春
	二年	北 結月
	中学校二年	大島 彩愛
	三年	藤本 ひなの
	高等学校一年	藤原 さくら
	三年	鈴木 こと実

あとがき

◆制限のある日が続きますが、前を向いて頑張りましょう。

園の輪

そのわ No.180

令和4年3月17日発行

学校法人 甲子園学院

〒663-8107 西宮市瓦林町4番25号

TEL. 0798(67)2100

FAX. 0798(67)5488

http://www.koshien.ac.jp/honbu/